

## 教員免許状更新講習～学校教育における体験活動の効果的な進め方～

平成 30 年 10 月 27 日（土）～10 月 28 日（日） 1 泊 2 日

### ○目的

児童生徒の「生きる力」を育む上で重要な体験活動による教育活動をより一層充実するために、体験活動の意義や指導に関する知識・技術を習得する。

また、喫緊の教育課題である防災教育等を含む安全教育について、体験活動の視点から理解を図る。



### ○参加者

幼・小・中・高・特別支援学校教諭・その他 計 70 名

### ○事業の内容

#### （1）「教育の現状と課題」（講義）

講師：静岡県教育委員会義務教育課指導監 室伏 伸明 氏

教育をめぐる現状と課題，国・県の教育政策の動向，これからの教員に求められるものについて学んだ。事前アンケートの内容も網羅した講義内容であり，「強い者が生き残るのではなく，変化する者が生き残る」や「自己呈示・自己開示」をキーワードに，現場経験の豊富な講師の先生ならではの提言やアドバイスの詰まった講義であった。



#### （2）「主体的・対話的で深い学びに向けて～参加型学習の指導法～」 （講義・実習）

講師：国立中央青少年交流の家企画指導専門職 齋藤 潤

児童生徒が自ら課題を見つけ，自ら学び考え，主体的に判断・行動し，問題を解決する資質や能力をはぐくむための参加型学習について理解した。また，アクティブラーニングの手法を盛り込んだプログラムを体験することにより，今後の学級作りや授業改善のヒントを得た。

#### （3）「体験活動と安全教育」（講義・実習）

講師：岐阜女子大学文化創造学部教授 井上 透 氏

体験活動で起こり得るリスクについて実際のデータを通して学ぶことにより，リスクの仕組みを理解し，それらのデータや事例からリスクマネジメント・リスクコントロールについての考えを深めた。



#### （4）『「キャンドルのつどい」の進行とレク指導』（実習）

講師：常葉大学非常勤講師 田井中 正志氏

学校の集団宿泊活動で人気の高い夜のプログラムである「キャンドルのつどい」の具体的な進め方と，あらゆる場面で使えるレクリエーションの内容や指導方法を体験を通して学んだ。

## (5) 『防災教育』の充実を図る指導方法(講義・実習)

講師：国立中央青少年交流の家企画指導専門職

柳原 雅人, 大家 浩靖, 齋藤 潤



「目黒巻」や「クロスロード」等を通して、実際の災害現場をイメージすることにより防災コンピテンシーを高める指導法の紹介や実習を行った。

また、基本的な野外炊事の方法や、災害時に役立つ調理法の実習や紹介を行い、防災教育の充実を図る指導方法を学んだ。



## (6) 「学校教育における体験活動」(講義)

講師：國學院大學人間開発学部教授 杉田 洋 氏

体験活動の充実が求められている背景、新しい学習指導要領で重要とされている体験活動の内容とその教育的意義、言語活動と体験活動の関連について講義を受けた。また、異年齢集団による触れ合いの充実を図っている様子などがビデオやスライドで紹介され、感動的なシーンに涙ぐむ受講者が多く見られた。

また、教員としての初心を思い出すきっかけともなり、エールもたくさん頂いた講習であった。



## (7) 「体験活動の教育活動への活用」(講義)

講師：国立中央青少年交流の会主任企画指導専門職 柳原 雅人

教科等の単元、題材と施設の活動プログラムの対応についての紹介ということで、当施設で今年度実施されたイングリッシュウォークラリーについての説明を行った。

### 《受講生の感想から》

- 来る前は、免許更新が目的で気が重かったのですが、素晴らしいお話、体験、コミュニケーション!!参加できたことで自分自身の心が温かくなり、明日からがもっと楽しみになりました。
- 今、問題視されていること、また、マンネリ化していることなどを改めて、詳しく講義を受けることで「こんな見方があるのか、こんなアプローチもあるのか…」と発見の多いプログラムでした。
- これまでの自分を振り返りこれからの教師生活を充実させていきます。「我が教師人生に悔いなし」と終われるように。
- 学びの手法は子ども達の立場に立って考え、様々に工夫すれば、授業が楽しくなり、主体的に学ぶことができるとわかりました。

### 《成果と課題》

- 素晴らしい講師の指導により、受講生から高い満足度を得ることができた。
- 野外活動と防災教育を結びつけたり、実践的な講習プログラムを数多く紹介することによって、学校現場ですぐに取り組むことのできるプログラムとして紹介することができた。
- 事前アンケートの内容を講師の先生方が講義に反映してくださったため、自由記述アンケートからも講習に対する受講生の満足度が高かったことが窺えた。
- 例年に比べ、受講対象者や受講希望者が多く、参加者募集開始時の受け入れ予定人数の2倍近くの先生方の申し込みを受け入れたことにより、動きのあるプログラム等においては、会場が手狭になってしまうシーンがあった。